

## 展示室4 「萩原朔太郎大全2022」連携展示

詩とイメージ-司修作品を中心に

2022年11月1日(火)～12月21日(日)

本室では、前橋市出身の詩人萩原朔太郎の没後80年を記念して前橋文学館が開催している連携プロジェクト「萩原朔太郎大全2022」の一環として、同じく前橋市出身の司修(つかさ・おさむ)が朔太郎の詩に寄せた挿絵の原画と、版画家恩地孝四郎による朔太郎の肖像をご紹介します。

司は幻想的な絵画を描くことで知られるだけでなく、絵本も含めた書籍の挿絵画家、装丁家、文筆家と多彩な顔を持つ作家です。独学で油絵や版画制作を学び、同じく群馬生まれの鶴岡政男を含む新人画会の画家たちや、15世紀の画家ボスやブリューゲルの作品に影響を受け、コラージュ、デカルコマニーといった20世紀のシュルレアリスムの作家たちが好んで用いた技法や、エッチング、リトグラフといった版画技法で作品を制作しています。

本展示では、朔太郎の『氷島』(1934年)所収「漂泊者の歌」をはじめとする詩のアンソロジー版画集『漂泊者の歌』や、「郷土望景詩」(1925年)などに着想を得た油彩画合わせて26点をご覧いただけます。

恩地孝四郎は朔太郎のデビュー詩集『月に吠える』(1916年)の挿絵を手がけるなど、朔太郎と深い関わりのある版画家です。朔太郎没後に発表した木版による肖像画には、旧友への懐古と追悼の意が込められています。

No.	作者名	(生没年)	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	備考
1	司 修	(1936～ )	漂泊者の歌	1978	リトグラフ・紙		
1-1			1 漂泊者の歌			37.0×59.3	
1-2			2 殺せかし！殺せかし！			40.4×59.3	
1-3			3 見えない兇賊			41.0×44.8	
1-4			4 恐ろしい山			38.0×52.0	
1-5			5 風船乗りの夢			36.3×59.4	
1-6			6 寄生蟹のうた			37.6×38.2	
1-7			7 蝶を夢む			37.8×55.8	
1-8			8 帰郷			33.4×45.0	
1-9			9 地面の底の病気の顔			45.3×40.0	
1-10			10 さびしい来歴			43.0×63.5	
2			『萩原朔太郎全集第一巻』表紙絵	1993	油彩・紙(本の表紙に手描き)	21.3×14.3	
3			萩原朔太郎「帰郷」より ＜わが故郷に帰れる日＞	1993	油彩・板	19.5×28.5	
4			萩原朔太郎「帰郷」より ＜火焰は平野を明るくせり。＞	1993	油彩・板	14.2×14.2	作者寄贈
5			萩原朔太郎「帰郷」より ＜まだ上州の山は見えや。＞	1993	油彩・板	14.2×14.2	

6	萩原朔太郎「帰郷」より ＜母なき子供等は眠り泣き＞	1993	油彩・板	14.0×14.0	
7	萩原朔太郎「帰郷」より ＜ひそかに皆わが憂愁を探れるなり。＞	1993	油彩・板	14.2×14.2	
8	萩原朔太郎「帰郷」より ＜さびしくまた利根川の岸に立たたんや。＞	1993	油彩・板	17.2×37.5	
9	萩原朔太郎「帰郷」より ＜人の憤怒を烈しくせり。＞	1993	油彩・板	35.1×25.0	
10	萩原朔太郎「中学の校庭」	1993	油彩・板	14.0×14.1	
11	萩原朔太郎「才川町」	1993	油彩・板	29.5×24.3	
12	萩原朔太郎「新前橋駅」	1993	油彩・板	9.2×9.2	
13	萩原朔太郎「大渡橋」	1993	油彩・板	39.5×38.0	
14	萩原朔太郎「広瀬川」より ＜われらの生涯を釣らんとして。＞	1993	油彩・板	18.0×30.0	
15	萩原朔太郎「国定忠次の墓」	1993	油彩・板	29.9×29.9	
16	萩原朔太郎「虚無の鴉」より ＜我れはもと虚無の鴉＞	1993	油彩・板	25.0×20.0	作者寄贈
17	萩原朔太郎「氷島」より	1993	油彩・板	7.8×4.8	作者寄贈
18	恩地孝四郎 (1891-1955) 『氷島』の著者(萩原朔太郎像)	1943	木版・紙(自摺り)	53.0×42.0	

※都合により展示作品を変更する場合がございます。ご了承下さい。